

# 国際交流

## 姉妹都市ナホトカ市(ロシア連邦)

ナホトカ市はロシア連邦沿海地方に位置する人口約14万人(令和3年現在)を有する都市です。昭和31年日ソ共同宣言の調印により、舞鶴市では引揚者の乗船と貿易で友好の深いナホトカ市の友好強化に寄与しようという機運が高まり、同36年日ソ間で



▲姉妹都市提携調印式

初めてとなる姉妹都市提携が実現しました。以来、今日まで、両市の間では「日本海を平和と友情の海に」を合言葉に、スポーツ交流団の相互派遣、少年使節団の交換など活発な交流を展開し、令和3年には、姉妹都市提携60周年を迎えました。



▲ナホトカ市青少年レスリング訪問団が来訪(平成26年)



▲提携55周年ナホトカ市青少年文化交流団コンサート(平成28年)



▲ナホトカ市青少年ソフトボール訪問団が来訪(平成29年)

## 友好都市大連市(中国)



▲友好都市提携調印式

大連市は中国東北部に位置する人口約608万7千人(令和4年現在)を有する港湾工業都市です。舞鶴市では、地理的な条件や引き揚げ等の歴史的な経過から、大連市との友好交流を望む市民の声が強くありました。昭和53年の日中平和友好条約の締結により、舞鶴市としても関係機関への働きかけや経済・貿易関係の交流を積極的に展開した結果、同57年友好都市提携が実現しました。以来、今日まで、両市の間では、各種訪問団の相互派遣、少年使節団の交換、友好の船の派遣など活発な交流を展開し、令和4年には、友好都市提携40周年を迎えました。



▲提携30周年記念式典でクレインズ'舞太鼓'が和太鼓を披露(平成24年)



▲国際交流員による倉梯小学校での国際理解教室(平成27年)



▲舞鶴市・北九州市・伊万里市・金沢市の青少年が大連市を訪問(令和5年)



▲大連市少年使節団が来訪(平成30年)

## 日ロ沿岸市長会議を開催

平成25年、第24回日ロ沿岸市長会議・日ロ沿岸ビジネスフォーラムが舞鶴市で初めて開催。日ロ28都市の市長などの代表者や経済関係者など約120人が出席し、会議では「経済」と「観光」をテーマに、両地域の友好促進と文化・経済関係の強化に向けて議論しました。





▲舞鶴市青少年交流訪問団が伝統芸能を通じて文化交流 (平成 27 年)

浦項(ポハン)市は、韓国・慶尚北道の東海岸に位置する人口約51万9千人(令和4年12月現在)を有する工業都市です。平成23年に京都府とともに「経済交流等の推進に関する協定書」を締結後、本格的に交流を開始しました。

浦項市(大韓民国)



▲浦項市青少年交流訪問団が来訪 (令和 5 年)

同年に京都舞鶴港が「日本海側拠点港」の選定を受けて以来、国際フェリー航路の開設に向けた取組を実施。現在、舞鶴市では浦項市と中学生の相互訪問など、青少年交流を進めています。



▲姉妹都市提携調印式

ポーツマス市は英国南部の港湾観光都市で、人口約20万8千人(令和4年6月現在)を有しています。舞鶴市とポーツマス市は平成5年、赤れんが博物館の開館時にポーツマス市かられんがが贈られたことをきっかけに交流が始まりました。その後、小中学校の手紙の交換やボイスカウトの交流など市民レベルでの交流が進み、同10年に姉妹都市提携が実現しました。特に舞鶴市の青少年がポーツマス市を訪れて行う英語研修では、これまでに参加人数が280人を超え、青少年が広い視野を持つきっかけとなっています。令和5年には姉妹都市提携25周年を迎えました。

姉妹都市ポーツマス市(英国)

お世話になった舞鶴市国際交流員の皆さん (平成 25 年度～令和 5 年度)



平成 25 年度 李明熾さん (中国・大連)



平成 26 年度 崔銘哲さん (中国・大連)



平成 27 年度 鄧悦さん (中国・大連)



平成 28 年度 孫亞南さん (中国・大連)



平成 29 年度 李芳さん (中国・大連)



平成 30 年度 朴蓮姫さん (中国・大連)



令和元年度 曲振波さん (中国・大連)



平成 29～令和 3 年度 レ・アルトゥルさん (ウズベキスタン)



令和 4 年度～ アフメドフ・アシルベクさん (ウズベキスタン)



▲提携 20 周年ポーツマス市青少年訪問団が来訪 (平成 30 年)



▲舞鶴市の中高生によるポーツマス市での英語研修 (平成 27 年)



▲提携 25 周年記念 相互寄贈図書のお披露目式 (令和 6 年)



▲提携 25 周年記念 ポーツマス市名誉市長による講演会を開催 (令和 5 年)

# ウズベキスタン共和国

ウズベキスタンは、中央アジアに位置しており、面積は日本のおよそ1.2倍、人口は約3440万人（令和4年現在）、戦後、約2万5千人の日本人が抑留された地で、平成3年にソビエト連邦崩壊に伴い独立した



▲スルタノフ氏が市役所を訪問（平成28年）

国です。同28年に首都タシケント市内の日本人抑留者資料館のスルタノフ・ジャリル館長が引揚記念館を訪問したことがきっかけでウズベキスタンとの交流が始まりました。その後、東京2020オリンピックにおけるウズベキスタンのホストタウンに登録され、令和3年の本大会直前には、柔道代表選手団が舞鶴市で事前合宿を実施。このほか、日本人抑留者が建設に携わったナボイ劇場の団員による公演や、現在では、令和元年にリシタン地方と交換した「人材育成交流に関する覚書」に基づき「産業技術」「介護福祉」「農業」分野の人材育成に協力しています。



▲東京オリンピック柔道代表選手団の市役所での見送り（令和3年）



▲東京オリンピック事前合宿（令和3年）



▲ウズベキスタンで茶の試験栽培をするため、苗木を準備（令和3年、4年）



▲舞鶴市代表団がウズベキスタンを訪問（平成29年）



▲伝統料理プロフなどの学校給食を味わうスルタノフ氏（平成30年）



◀ウズベキスタン人留学生が在学する近畿職業能力開発大学校京都校（令和4年）



▲柔道衣をウズベキスタンへ寄贈（平成30年）



▲ウズベキスタン文化芸術訪問団による舞鶴公演（令和元年）